

平成13年度委託試験で注目された病害虫防除薬剤

社団法人日本植物防疫協会試験事業部 あら い ま すみ かど た けん ご 新井真澄・門田健吾

平成13年度の農業委託試験は、10月23日に開催されたリング農業連絡試験成績検討会を皮切りに、一般委託試験地域成績検討会並びに総合判定会議、各連絡試験成績検討会が順次開催され、12月18～19日の生物農業連絡試験成績検討会まで、依頼された薬剤の各種病害虫に対する効果や薬害、使用方法の検討が行われた。

ここでは、平成13年度に依頼された試験を概括し、その中で、注目された薬剤並びにその傾向等について紹介する。

I 平成13年度の委託薬剤の動向

〔殺菌剤〕

本年度依頼された委託試験薬剤は226剤（生物農業・展着剤を除く）で、複数の作物、病害に対して延べ1,931件の試験が国公立試験研究機関等で実施された。薬剤数及び総受託件数はわずかに減少した（図-1）。委託薬剤中、受付時に未登録の新規化合物を含む薬剤数は全体の約2割で、この割合はここ数年変化していない。

イネ・ムギ関係では、今年も箱粒剤が極めて多かったが、現場での多様な使用場面に合わせて、殺菌・殺虫成分の組み合わせやコンテンツを変えた様々なバリエーションが増加したことが一要因である。野菜関係は昨年とほぼ同数の試験依頼を受けたが、対象作物の栽培地域や対象病害の発生地域が限定された病害が多く、試験実施が困難な例が多かったため、試験件数は減少した。

落葉果樹、リング関係は年により大きな増減を繰り返しているが、本年はブドウ、モモを中心に落葉果樹の試験が多くなった。これは、薬剤の適用拡大のピークが果樹ごとに時期をおいて現れることが要因の一つと考えら

れる。また、芝草では従来から現場で求められていた少ない散布水量への変更試験も一段落し、新規剤も見られなかったことから、薬剤数、試験数は大幅に減少した。生物農業については、今年初めて依頼された新規製剤は少なかったものの、2年目を迎えた新規製剤の依頼件数が増加したこと、既登録製剤の適用拡大が盛んであったことなどにより、件数は大幅に増加した。

〔殺虫剤〕

本年度依頼された薬剤数は258剤で（生物農業・展着剤を除く）、それぞれ複数の作物・害虫に対して延べ3,110件が試験され、稲対象の剤を中心に、薬剤数で10剤、試験件数では150件ほど増加した。また、新規成分の単剤は51剤と、ここ3年ほど安定したペースで開発が進められている（図-2）。しかし、近年の農業企業の合併で今後は薬剤の開発が効率化されると考えられる。今後は既知化合物の有効利用も重要性が増すと思われる。

試験分野別に見ると、イネ・ムギ関係では、前述のとおり大幅に試験件数が増加した。そのほとんどは殺虫殺菌剤混合の育苗箱施用剤で、処理時期も従来の移植時だけでなく、緑化期や播種時、さらには床土混和など現場のニーズに合わせた開発が進められている。さらに、側条施用や直播き栽培用の種子処理、カメムシの粒剤散布など、さまざまな処理方法が試みられていた。野菜関係はここ数年の傾向どおり、適用拡大を中心に大きな変化はなかった。連絡試験はカンキツで若干減少したものの、落葉・リング・芝草の各連絡試験では増加していた。

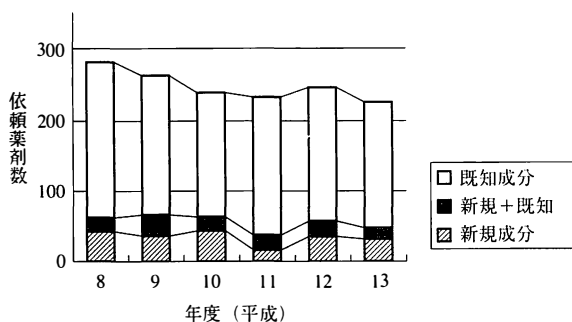


図-1 殺菌剤効果試験依頼薬剤数の推移

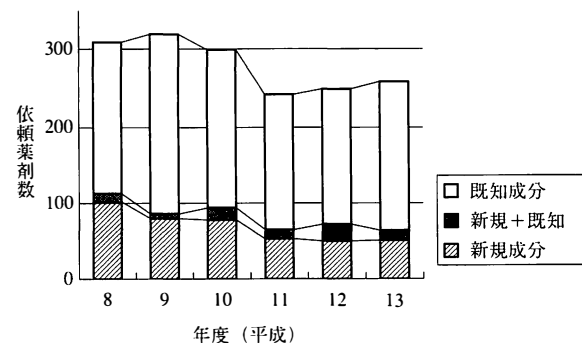


図-2 殺虫剤効果試験依頼薬剤数の推移

試験内容としては、野菜のタネバエ・ダンゴムシや果樹のシャクトリムシなど、圃場での自然発生が見込めず、実施しにくい試験が昨年に引き続き多くなっていた。さらに、本年は前述のイネのカメムシ粒剤散布や果樹での土壌灌注処理など、これまでとは違う処理方法の試験が実施されていた。試験方法の検討など、担当者の皆様にご苦労をおかけすることも多いが、現場ニーズに即した剤を早期登録するためにも、今後ともご協力をお願いしたい。

II 注目される新規化合物を含む薬剤

〔殺菌剤〕

平成13年度に試験された新規化合物を含む薬剤（生物農薬を除く）は47剤で、単剤は31剤、混合剤は16剤であった。これらのうち本年度初めて依頼のあった成分は8剤であった（表-1）。

〔殺虫剤〕

平成13年度に初めて依頼があった化合物は4種類（生物農薬を除く）（表-2）。また、未登録の新規化合物を含む薬剤は64剤（剤型別）で、昨年に比べると減少していた。以下、注目されるものをいくつか示す。

1 成分未公開新規化合物

MKI-245 粒剤は、接触型殺線虫剤で、平成12年度から試験開始され本年初めて実用性ありの判定を受けた（三菱化学(株)）。NNI-0001 顆粒水和剤は、鱗翅目専用

剤で摂食行動を阻害して殺虫すると思われる。ハスモンヨトウやオオタバコガ等の大型鱗翅目にも高い効果が認められ、本年初めての実用性判定をキャベツのコナガ・アオムシ・ヨトウムシで受けた（日本農薬(株)）。OK-5101 フロアブルは殺ダニ専用剤で、果樹を中心に高い効果が認められていた（大塚化学(株)）。

また、今年新たに試験実施された薬剤は4剤だった（表-2）。そのうち、0161 フロアブルは、選択的な活性のため天敵類への影響は少ないと考えられ、IPMに利用しやすい剤と思われる。まだ試験例は多くないが、良好な結果が得られており、今後に期待したい（日本バイエル(株)）。また、SI-0009 乳剤は野菜・果樹の区別なく広範な害虫に試験が実施され、おおむね良好な結果が得られていた。天敵類への影響は不明だが、スペクトルの広い薬剤として注目したい（三共(株)）。

III その他注目された事項

1 土壌処理剤

2005年の臭化メチル全廃を間近に控え、代替剤の登録促進がかなり進んだこともあり、本年の新規製剤はNK-101の1薬剤であった。本剤の有効成分は既存のクロルピクリンで、これを乳剤にすることにより水との混合を可能にした製剤である。処理量は10a当たり20~30lで液肥混入器を用い希釈し、灌水チューブを使用してマルチ内の土壌表面に散布する。本剤は一般の耕種作業の中で処理が行え、特別な手間をかける必要がな

表-1 平成13年度に初めて依頼のあった新規化合物（殺菌剤）

薬剤コード・成分	依頼作物・病害	備考
0111 フロアブル 25.0%	ネギ：黒斑病・さび病、 モモ・ウメ・カキ・ブドウ・オウトウ・カンキツ：各種病害	
AEF 002 WDG 75.0%	シバ：ダラスポット病・葉腐病（ブラウンパッチ）	長期間の残効期待ができる。
AEF 994 WP 未公開	シバ：ダラスポット病	予防効果主体。
AGF-013 水和剤 未公開	キュウリ・イチゴ：うどんこ病、 キュウリ：べと病	
AGIF-011 スプレー 2.75%	モモ：縮葉病	多硫化カルシウムを成分とする。
AKD-5121 液剤 未公開	キュウリ・イチゴ・バラ：うどんこ病	植物抽出物。抵抗性を誘導すると言われている。
BAG-010 乳剤 250 g/l	ムギ類：赤かび病・赤びさ病・うどんこ病	
BT-1 粒剤 7.0%+1.5%	イネ：いもち病・紋枯病	育苗箱施用新規成分同士の混合剤

表-2 平成13年度に初めて依頼のあった新規化合物製剤（殺虫剤）

薬剤コード・成分	依頼作物・害虫	備考
0161 フロアブル 新規化合物24%	トマト：オンシツコナジラミ	コナジラミとハダニに長期残効性が期待できる。他の吸汁害虫に活性低く、天敵への影響も少ないと考えられる。浸透性は認められない。
AGIF-011 スプレー 多硫化カルシウム 2.75%	ウメ：カイガラムシ類	発芽前の予防散布で越冬虫を防除する。
NAM-002 液剤 既知天然物0.15%	ナス・キュウリ：アブラムシ類・ハダニ類	速効的な殺虫効果は高くないが、脱皮・摂食阻害作用が認められる。
SI-0009 乳剤 新規化合物1.0%	トマト・キャベツ・レタス・果樹・茶：コナジラミ類、アザミウマ類、鱗翅目、ハモグリバエ類	作用性は不明だが、広範な対象害虫に活性が認められる。

生物農薬を除く。

いことから極めて省力的である。現在、ナス青枯病、トマト萎凋病、イチゴ萎黄病などに試験中である。実用性の判定は来年以降に持ち越された。同様の処理はカーバム剤、NCS液剤が先行しており、ハウレンソウの萎凋病、キュウリ、スイカのネコブセンチュウ等に登録されている。

昨年、新規化合物で登場したTMZ-9911液剤はその成分がヨウ化メチルであることが公開された。処理は臭化メチルと同様、マルチ被覆をした後、容器を開缶するだけで耕起も必要なく省力的である。現在、ナス、トマト青枯病、メロン黒点根腐病などに試験中であり実用的な効果は認められているが、トマト以外で薬害の発生事例があり原因を解明中である。

2 芝の新しい病害

洋芝（ペレニアルライグラス）の新しい病害として昨年からのいもち病が試験されている。この病害は現在、ティグラウンド等へのオーバーシーディングで問題となっているが、汚染種子の持ち込みが主な原因であると考えられている。本年はグラステン水和剤の1剤が試験されたが、本病と同属の菌による稲のいもち病に対しては多くの優れた薬剤が既に開発されており、今後の展開が注目される場所である。

また、従来コウライシバのしずみ症と言われた病害のなかで *Phialophora* sp. が主体で起こるものがあり、現場では一般的にゾイシアデクラインと呼称されている。本菌については、ペントグラスに発生する立枯病（ティクオールパッチ）菌との関連性を指摘する向きもあるが、詳細は明らかでない。複数の菌が関与するしずみ症に比べ、薬剤による防除効果が比較的高く現れる。今年、センチネル顆粒水和剤が本病に対して実用性ありの判定がなされた。

現在のところこの2病害に対しては登録薬剤がないことから、関連メーカーの一層の奮起を期待したい。

3 生物農薬（殺菌剤）

生物農薬の殺菌剤は今年13薬剤について検討され総検討課題数は140件となった。冒頭で述べたようにこれは昨年50件以上の増加で対象病害は多岐にわたった。新規製剤は1剤のみであったかわりに（表-3）、以前から継続実施された剤では、多くのものが実用性ありと判定された（表-9）。

生物農薬を水稻種子消毒に使用する新たな試みは、昨年10月のモミゲンキ水和剤の登録として結実した。本剤が稲もみ枯細菌病、苗立枯細菌病に既存の化学農薬と同等かそれ以上の防除効果を示し、実用性ありとされたことは記憶に新しい。本年実用性の判定がなされた、種

表-3 平成13年度に新たに依頼のあった生物農薬

薬剤名	成分名	対象病害虫名
(殺菌剤) CGC-4153 水和剤	細菌 2×10^{10} cfu/g	イネ：いもち病 ・ばか苗病（種子消毒）
(殺虫剤) TA・TM-1A	<i>Orius laevigatus</i> (ハナカメムシの一種)	アザミウマ類
CAS-008	<i>Orius strigicollis</i> (タイリクヒメハナカメムシ)	アザミウマ類
NK-103	核多角体病ウイルス包埋体	ハスモンヨトウ
NBL-2	<i>Beauveria Bassiane</i> (寄生性糸状菌)	コナガ

子消毒剤KNB-050水和剤やKUF-1203水和剤も同様に稲の細菌病やばか苗病に対して比較的高い防除効果が認められており、今後の展開が期待される。それぞれの剤が優秀であることは言うまでもないが、種子の浸漬または育苗箱中という限られた環境の中で使用されることが、生物農薬にとっては効果の発揮しやすい有利な条件の一つであったことは、生物農薬開発の重要なポイントであると考えられる。

ボトキラー水和剤は *Bacillus subtilis* を有効成分とする生物農薬としてはおなじみの製剤で、平成10年に登録された。現在イチゴ、ナス、トマトの灰色かび病に1,000倍の茎葉散布で登録されている。今年、本剤に対して新たな処理方法が試みられている。一つは既存の処理技術を生かした常温煙霧法、もう一つは全く新しい処理方法で温風機ダクト内処理である。これは冬期間施設内で使用される温風器のダクト内に本剤を網袋に入れ吊しておくもので、全く水を使用しないところに特徴がある。温風機の稼働する栽培期間中、常に微量のボトキラーを施設全体に供給し続けることは、本剤（生物農薬）の性質上極めて理にかなっている。また散布する手間がかからないこと、投下量が非常に少ないこと（300g/10a/約1か月）、本剤の散布で認められることがあった作物への汚れがほとんど見られないことは、処理方法として際だって優秀である。現在ナスとキュウリの灰色かび病に試験中で、判定は来年以降に持ち越されたが、効果は比較的安定しているようで注目されている。

殺菌剤の生物農薬はこれからますます注目される分野であると思われるが、種子消毒にしても、ボトキラーのダクト内散布にしても、生物農薬の特性が良く生かされた処理方法であり、これからの生物農薬の使用法を含めた開発の方向性を示唆するものと思われる。

4 生物農薬（殺虫剤）

殺虫剤分野は30剤に対し133件が試験された。薬剤

表-4 平成13年度にトマトハモグリバエに実用性ありと判定された農薬

作物名	薬剤名
トマト メロン	アクタラ粒剤5, トリガード液剤, スピノエース顆粒水和剤, アファーム乳剤

数は前年とほとんど変化なく、件数は若干の増加が見られていた。また、新規剤も4剤供試され、安定した開発が進められている(表-3)。

なお、本年度新規登録された生物農薬は、タイリクヒメハナカメムシの「オリスターA(住友化学)」・「タイリク(アリスタ)」とヤマトクサカゲロウの「カゲタロウ(アリスタ・アグロスター)」が新規天敵で、成分としては既登録であるもののオンシツツヤコバチの「ツヤトップ(キャッツ)」が登録された。

5 トマトハモグリバエ対策

トマトハモグリバエは新たな侵入害虫で、平成11年に沖縄県で発生が確認され、その後西日本を中心に発生地域を拡大、平成14年1月現在で25都府県から発生が報告されるに至っている。本種は従来発生が認められたマメハモグリバエやナスハモグリバエと形態・被害ともに判別が難しく、これまでハモグリバエ類が問題とならなかったウリ科植物やハクサイで多発生が認められる上、現在のところ本種に登録のある薬剤はなく、現場で大きな問題となっている。

これらの状況を鑑み、農林水産省植物防疫課と協議の上、本種を緊急的な措置が必要な害虫とし、平成13年に圃場試験で十分な効果が認められた4薬剤を「実用性あり」と判定した(表-4)。これらの薬剤が迅速に登録され、問題解決に貢献することを期待したい。また、本種に対する措置は平成14年度も継続されるため、試験担当者の皆様には積極的な試験実施を是非とも願いたい。

表-5 最近名称に変更のあった主な薬剤

旧薬剤名	変更後名称	成分名・量
(殺菌剤) 0011 フロアブル	オンリーワン フロアブル	テブコナゾール 20.0%
AMH-213 粒剤	ビルダープリンス粒 剤	フィプロニル 1.0% プロベナゾール 10.0%
CAB-02 水和剤	モミゲンキ水和剤	シュードモナス属細菌 CAB-02株 1×10 ¹⁰ cfu/g
OKUF-001 水和剤	ベンコシャイン水和 剤	オキシポコナゾールフマ ル酸塩+マンゼブ
サンリット PZ水和剤	テーク水和剤	シメコナゾール 2.4% マンゼブ 65.0%
(殺虫剤) RM-131 A ・乳剤	アカリタッチ乳剤	プロピレングリコール 脂肪酸エステル 70.0%
S-1812 EW	プレオフロアブル	ピリダリル (ISO申請 中) 10.0%
(殺虫・殺菌剤) NKD-001	ダブルストッパー	クロルピクリン 35.0% 1,3-ジクロロプロペン 61.0%
OK-0001 粒剤 アブロムモンエ アー	グランドデラウス オンコル粒剤 アブロードロムダン モンカットエアー	ベンフラカルブ 8% ジクロシメット 3% テブフェノジド 7.5% ブプロフェジン 15.0% フルトラニル 15.0%

IV 最近名称に変更があった薬剤

多くの薬剤は、初めて委託に出される時にはコード番号などを薬剤名として使用しているが、登録に伴って商品名が命名される。また、商品名が付けられる前に何らかの事情で名称変更される事もあり、過去の試験と比較する時、戸惑うこともある。そこで、最近名称に変更があった薬剤の一覧表を作成した(表-5)。比較検討時の参考になれば幸甚である。

表-6 平成13年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋(殺菌剤:イネ・ムギ)

作物名	病害名	処理方法	薬剤名
イネ	いもち病	播種時覆土混和	デラウスプリンス粒剤 06
	いもち病	種子消毒 育苗箱施用 (移植時) 側条施用 本田散布 投げ込み パンクル	モミガード CDF 1272粒剤, AM-1031粒剤, BJL-002粒剤, F-1301粒剤, MOK-108粒剤, MTI-142粒剤, NC-511粒剤, NNIF-0051粒剤, NNIF-0052粒剤, デラウス顆粒水和剤 BMC-1, BMC-2, MC-1, MC-2, パダンオリゼメート顆粒水和剤 BJL-003粒剤, HM-2001粉剤DL, HM-2002粉剤DL, HM-2012粉剤DL, KUM-011粉剤DL, MTI-143粉剤DL, NNF-0121粒剤, NNIF-0131粉剤DL, NNIF-0134粉剤DL, SC-9907粉剤DL, SF-0101粒剤, SF-0105粉剤DL, SSF-12650%剤 NOJ-124(ジャンボ剤) デラウストレボンフロアブル

作物名	病害名	処理方法	薬剤名
イネ	いもち病 (葉)	育苗箱施用 (緑化期)	Dr. オリゼ箱粒剤, MM-223 粒剤
		育苗箱施用 (移植時)	KUM-003 粒剤
	いもち病 (穂)	本田散布	BJL-003 粒剤, アチーブ1 キロ粒剤 24, アチーブ粒剤 7, アチーブ粒剤 9
	稲こうじ病	本田散布	モンガリット粒剤
	紋枯病	播種時覆土前	デラウスプリンスリンパー箱粒剤
		育苗箱施用 (移植時) 本田散布	AM-1031 粒剤, BJJ-002 粒剤 BJL-003 粒剤, NNF-0121 粒剤, NNIF-0131 粉剤 DL, SC-9907 粉剤 DL, SF-0101 粒剤, TI-435 H プラシンバリダ粉剤 DL, アプロードロムダンモンカットエアー オリブライトパック
	穂枯れ (すじ葉枯病菌)	本田散布	NNF-0023 粉剤 DL, モンガリット粒剤
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	本田散布	NNF-0023 粉剤 DL, NNIF-0131 粉剤 DL, ST-981 粉剤 DL, モンガリット粒剤
		投げ込み	オリブライトパック
	変色米 (アルタナリア菌)	本田散布	NNF-0023 粉剤 DL, アミスターエイト
	変色米 (エピコッカム菌)	本田散布	ノンプラスフロアブル, プラシンジョーカーフロアブル
	もみ枯細菌病	育苗箱施用 (移植時)	Dr. オリゼプリンス粒剤 10
		本田散布	バリダシン液剤 5
	白葉枯病	育苗箱施用 (移植時)	ジャッジ箱粒剤
苗立枯病 (リゾープス菌)	種子消毒	モミガード C 水和剤	
苗立枯病 (トリコデルマ菌)	種子消毒	モミガード C 水和剤	
褐条病	播種時覆土前	NNF-9850 粒剤 12	
	種子消毒	モミガード C DF	
もみ枯細菌病	種子消毒	モミガード C DF	
苗立枯細菌病	種子消毒	モミガード C DF, ヨネボン (改)	
ごま葉枯病	種子消毒	モミガード C DF, ヨネボン (改)	
ばか苗病	種子消毒	DF-581 フロアブル, モミガード C DF	
コムギ	なまぐさ 黒穂病	種子消毒	キヒゲン R-2 フロアブル
	褐色雪腐病	本田散布	キノンドー水和剤 80
オオムギ	網斑病	種子消毒	ヘルシード水和剤
	斑葉病	種子消毒	キヒゲン R-2 フロアブル

平成13年度は77薬剤491試験が実施され、数多くの対象(24病害)について延べ80剤が実用性ありと判定された。新規成分単剤としては、BJL-002(箱施用)BJL-003(本田散布剤)のみであるが、いずれもいもち病・紋枯病に安定した効果を示した。これらの中には肥料と混合された側条施用される剤があり、田植えと同時に元肥、薬剤施用が行えるため省力的である。コムギ褐色雪腐病に対しては登録薬剤がなく、今回初めてキノンドー水和剤80が実用性ありと判定された。

表-7 平成13年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋(殺菌剤:野菜花き)

作物名	病害名	薬剤名
バレイショ	青枯病	ソイリーン, バリダシン液剤 5
	軟腐病	ドイツボルドー DF
	疫病	KUF-1201 顆粒水和剤, NOJ-126 WG
	粉状そうか病	スカブロック SC
	黒あし病	バクテサイド水和剤
	夏疫病	ダコニールエース
ヤマノイモ	葉渋病	シトラノフロアブル
	褐色腐敗病	ソイリーン
	根腐病	ソイリーン
	炭疽病	シトラノフロアブル, スパットサイド水和剤

作物名	病害名	薬剤名
ダイズ	紫斑病	HM-2005 粉剤 DL, マネージ粉剤 DL
アズキ	褐斑細菌病 灰色かび病 菌核病	カスミンボルドー DF, 粉衣用ペアーカスミン BJL-994 ドライフロアブル, ブロードワン顆粒水和剤 ブロードワン顆粒水和剤
インゲン	かさ枯病 菌核病	カスミンボルドー DF, ドイツボルドー DF BJL-994 ドライフロアブル, トップジン M ゾル, ブロードワン顆粒水和剤
エンドウ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	キルパー液剤
テンサイ	褐斑病	プランダム乳剤 25, ホクガード乳剤
ナス	灰色かび病 半身萎凋病 菌核病 うどんこ病	BJL-994 ドライフロアブル, オーシャイン水和剤 NKD-001 トップジン M ゾル MTF-753 フロアブル, NF-154 顆粒水和剤, オーシャイン水和剤
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病 萎凋病 褐色根腐病 苗立枯れ (ピシウム菌)	KUF-1201 顆粒水和剤, NOJ-126 WG BJL-994 ドライフロアブル, アミスター 20 フロアブル, サンヨール液剤 AL オーソサイド水和剤 80, サンヨール液剤 AL キルパー液剤 クロピクテープ クロルピクリンテープ
ピーマン	疫病 苗立枯病 (ピシウム菌)	ランマンフロアブル クロルピクリンテープ
キュウリ	べと病 灰色かび病 褐斑病 菌核病 黒星病 炭疽病 つる割病 うどんこ病	KUF-1201 顆粒水和剤, NOJ-126 WG, サンヨール液剤 AL, テーク水和剤, プリザード水和剤, ヨネボン MC フロアブル ベルクート水和剤 オーソサイド水和剤 80 BJL-994 ドライフロアブル サルバトール ME TMF-9831 顆粒水和剤, テーク水和剤 キルパー液剤 MTF-753 フロアブル, NF-154 顆粒水和剤, ヨネボン MC フロアブル
メロン	べと病 苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (リゾクトニア菌) つる割病 うどんこ病	BJL-993 ドライフロアブル, テーク水和剤 クロピクテープ クロピクテープ ルートガード油剤 テーク水和剤, ヨネボン MC フロアブル
スイカ	褐色腐敗病 黒点根腐病 つる割病 うどんこ病	ランマンフロアブル ソイリーン NKD-001, ルートガード油剤 マネージ M 水和剤
カボチャ	うどんこ病	サンマイトフロアブル
ダイコン	ワッカ症	キンセツ水和剤
ハクサイ	べと病 根こぶ病 根くびれ病	TMF-9831 顆粒水和剤, グコニール顆粒水和剤 NNF-0025 粉剤, フロンサイド SC ソイリーン
キャベツ	株腐病 根こぶ病	NNF-0025 粉剤 ノットパン水和剤, フロンサイド SC, ランマンフロアブル
カリフラワー	根こぶ病	BJL-861 微粒剤
ブロッコリー	根こぶ病	BJL-861 微粒剤
イチゴ	灰色かび病 萎黄病 うどんこ病	BJL-994 ドライフロアブル NCS 水溶液, クロルピクリン錠剤 HM-2004 AL, MTF-753 フロアブル
ネギ	べと病 黒斑病 苗立枯病 黄斑病 さび病 白網病	ダコニール 1000, テーク水和剤 アミスター 20 フロアブル, ダコニール 1000, テーク水和剤 ダコニール 1000 ストロビーフロアブル オンリーワンフロアブル, テーク水和剤 キルパー液剤

作物名	病害名	薬剤名
タマネギ	軟腐病 べと病 灰色腐敗病 ボトリチスによる葉枯れ 苗立枯病 黄斑病 白色疫病 小菌核病	ドイツボルドー DF BJL-993 ドライフロアブル, TMF-9831 顆粒水和剤, ヨネボン水和剤 セイビアーフロアブル 20, ベルクート水和剤, ベンレート水和剤, ロブラールフロアブル ベルクートフロアブル, ロブラールフロアブル キルパー液剤, ソイリーン ダコニールエース カーゼート PZ 水和剤, センクラス水和剤, ホライズンドライフロアブル, レイデン顆粒水和剤 ベルクート水和剤
ニラ	白斑葉枯病 さび病	ストロビーフロアブル ラリー乳剤
ニンニク	葉枯病 さび病	テーク水和剤 サルバトール ME, テーク水和剤
ラッキョウ	白色疫病	カーゼート PZ 水和剤
アスパラガス	斑点病 茎枯病	ストロビーフロアブル IC ボルドー 66 D, アミスター 20 フロアブル, ダコニール顆粒水和剤
レタス	軟腐病 灰色かび病 菌核病	キンセット水和剤 80 BJL-994 ドライフロアブル BJL-994 ドライフロアブル, アミスター 20 フロアブル
ニンジン	斑点病 黒葉枯病 しみ腐病	ロブラール水和剤 フロンサイド水和剤 ディ・トラベックス油剤
ホウレンソウ	べと病 萎凋病 立枯病	TMF-9831 顆粒水和剤, ホライズンドライフロアブル ソイリーン キルパー液剤
キク	半身萎凋病 白さび病	NKD-001, ディ・トラベックス油剤 アタックワン AL, アミスター 20 フロアブル, サンヨール液剤 AL, マネーエアゾル, モスピラン・トップジン M エアゾル
バラ	黒星病 うどんこ病	HM-2004 AL, サルバトール ME, ベニカ X 乳剤 F-0511 スプレー, HM-2004 AL, 粘着くん液剤
チューリップ	球根腐敗病	トリフミンジェット
パンジー	灰色かび病	F-0511 スプレー
ペチュニア	うどんこ病	F-0511 スプレー, サンヨール液剤 AL
プリムラ	灰色かび病	モスピラン・トップジン M スプレー II

平成 13 年度は 107 薬剤 842 試験が実施された。多種の作物に実用性ありとされた TMF-9831 顆粒水和剤の成分はホルベットである。国外ではよく知られた農薬成分であるが、日本では未登録の新規化合物である。テンサイの褐斑病の 2 剤は、10 a 当たり 25 l の少量散布で試験され、実用性ありと判定された。今後もこの処理法を取り入れる薬剤が増えるものと思われる。

表-8 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋 (殺菌剤: 連絡試験, 除生物農薬)

作物名	病害名	薬剤名
ナシ	赤星病 疫病 黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	アントラコール顆粒水和剤, インダーフロアブル オーソサイド水和剤 80, サニバー (水和剤) BJL-001 SE BJL-001 SE, インダーフロアブル BJL-001 SE BJL-001 SE
モモ	灰星病 黒星病	BJL-001 SE, サルバトール ME ベルクートフロアブル
スモモ	灰星病	パスワード顆粒水和剤
ウメ	灰色かび病 環紋葉枯病 黒星病 白紋羽病	オーシャイン水和剤, スイッチ顆粒水和剤 ストロビードライフロアブル, ロブラール水和剤 サルバトール ME, スイッチ顆粒水和剤 フロンサイド SC
ブドウ	べと病 黒とう病 晩腐病	KUF-1202 SE, テーク水和剤 テーク水和剤, ホライズンドライフロアブル テーク水和剤, デランフロアブル, ホライズンドライフロアブル
カキ	落葉病 炭疽病 うどんこ病	オンリーワンフロアブル KF-27 フロアブル オンリーワンフロアブル

作物名	病害名	薬剤名
リンゴ	赤星病 斑点落葉病 褐斑病 黒点病 黒星病 モニリア病 (予防効果) 輪紋病 すす点・すす斑病 炭疽病	OKUF-001 水和剤 BJL-001 SE, KF-27 フロアブル, OKUF-001 水和剤, ダコニール顆粒水和剤 BJL-001 SE BJL-001 SE, OKUF-001 水和剤 BJL-001 SE, OKUF-001 水和剤, テーク水和剤 サルバトール ME, ダコニール顆粒水和剤
	うどんこ病	フリントフロアブル 25 NNF-0021 水和剤, テーク水和剤 BJL-001 SE, ダコニール顆粒水和剤, デランフロアブル, フリントフロアブル 25, ユニックス Z 水和剤 BJL-001 SE
オウトウ	灰星病	O111 フロアブル, BJJ-001 SE, TMF-011 顆粒水和剤, オンリーワンフロアブル, サルバトール ME, サンリット水和剤
	せん孔病	ドキリン水和剤 80
カンキツ	かいよう病 灰色かび病 褐色腐敗病 貯蔵病害 (黒腐病)	IC ボルドー 66 D ベルコートフロアブル コサイド DF 顆粒水和剤, ジマンダイセン水和剤 オーシャイン水和剤
	茶	網もち病 もち病 輪斑病 新梢枯死症 炭疽病
芝	ガラスポット病 フェアリーリング病 疑似葉腐病 (春はげ症) 疑似葉腐病 (イエローパッチ) 葉枯病 葉腐病 (ブラウンパッチ) 葉腐病 (ラージパッチ) 紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病 ビシウム病 しずみ症 ゾシアディクライン 炭疽病	DKF-201 水和剤, SSF-133 顆粒水和剤, トルファン イカルガ 35 SC, グラポストフロアブル, ワンオン水和剤 NNF-9941 水和剤, YS-001 顆粒水和剤, トップグラスドライフロアブル ターフトップ DF, トップグラスドライフロアブル SSF-133 顆粒水和剤, マネージ DF SSF-133 顆粒水和剤, イカルガ 35 SC SSF-133 顆粒水和剤, YS-001 顆粒水和剤 ヘリテージ顆粒水和剤 NNF-9941 水和剤 ターフトップ DF センチネル顆粒水和剤 センチネル顆粒水和剤 SSF-133 顆粒水和剤, バナーマックス液剤, ポンジョルノ乳剤

落葉果樹を対象に 42 薬剤 201 試験が実施された。本年初めて実用性ありの判定を受けた薬剤は BJJ-001, KUF-1202 でいずれも新規化合物同士の混合剤である。

リンゴ・オウトウを対象としては 28 薬剤 165 試験が実施された。前出の BJJ-001 のほか、OKUF-001 (オキスポコナゾールフマール酸塩+マンゼブ) も各種病害に実用性が認められた。カンキツは 13 薬剤 59 試験, 茶は 5 薬剤 45 試験が実施された。

シバに対しては 24 薬剤 128 試験が実施されたが、受託件数の減少は大きかった。

表-9 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋 (殺菌剤:生物農薬)

作物名	病害名	薬剤名
イネ	もみ枯細菌病 (種子消毒)	KUF-1203, モミゲンキ水和剤
	苗立枯細菌病 (種子消毒)	KUF-1203, モミゲンキ水和剤
	ばか苗病 (種子消毒)	KUF-1203
トマト	灰色かび病	SB-910 水和剤, ポトキラー水和剤 (常温煙霧)
イチゴ	うどんこ病	MBF-122 水和剤
レタス	軟腐病	バイオキーパー水和剤
パセリ	軟腐病	バイオキーパー水和剤
ハウレンソウ	萎凋病	微生物炭堆肥
ブドウ	灰色かび病	SB-910 水和剤, ポトキラー水和剤

表-9 の注)

本年度は 13 薬剤 139 試験が実施された。これは昨年度のおよそ 1.7 倍の試験数であった。イネのモミゲンキ水和剤, トマトのポトキラー水和剤は処理方法の追加, バイオキーパー水和剤は対象作物の拡大である。また、本年初めて実用性ありの判定を受けた KUF-1203 は *Trichoderma* を成分とする稲の種子消毒剤で、通常の化学薬剤と同じ 24 時間浸漬処理をする。SB-910 水和剤は *Bacillus subtilis* が有効成分であり、果菜類の灰色かび病, うどんこ病を中心に数多くの対象について試験がなされている。また、ポトキラー水和剤と SB-910 水和剤は果樹の分野 (ブドウ・灰色かび病) で初めて実用性ありの判定が出された。

表 - 10 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋 (殺虫剤・イネ・ムギ)

作物名	害虫名	処理方法	薬剤名
イネ	ウンカ類	緑化期 移植時	Dr. オリゼプリンス粒剤 6, Dr. オリゼプリンス粒剤 10 1272 粒剤, KUM-003 粒剤, NNIF-0052 粒剤, MOK-108 粒剤, AM-1031 粒剤
		側条施用 散布 ブームスプレーヤー散布 乾田直播 湛水直播	BMC-2 AVI-210 SC デラウストレボンフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤
	ツマグロヨコバイ	移植時 ブームスプレーヤー散布	1272 粒剤, NNIF-0052 粒剤, KUM-003 粒剤, ウィンバリアード箱 粒剤, MOK-108 粒剤 カスラブジョーカーゾル, デラウストレボンフロアブル
	カメムシ類	散布	AVI-210 SC, ベストガード粒剤
	イナゴ類	移植時	NNIF-0051 粒剤
	イネアザミウマ	移植時	ウィンアドマイヤー箱粒剤
	ニカメイチュウ	移植時 散布	1272 粒剤, AM-1031 粒剤, KUM-003 粒剤, NNIF-0051 粒剤, ジ ヤッジ箱粒剤 ルーバンフロアブル
	コブノメイガ	移植時 床土混和 播種時	AM-1031 粒剤, 1272 粒剤, KUM-003 粒剤, NNIF-0051 粒剤, DAI-9952 粒剤 プリンス粒剤, デラウスプリンス粒剤 10 プリンス粒剤, デラウスプリンス粒剤 10
	イネツトムシ	緑化期 移植時	Dr. オリゼプリンス粒剤 6, Dr. オリゼプリンス粒剤 10 1272 粒剤, AMH-213 粒剤
	イネドロオイムシ	床土混和 播種時 移植時 側条施用	デラウスプリンス粒剤 6 デラウスプリンス粒剤 6 1272 粒剤, KUM-003 粒剤, NC-511 粒剤, NNIF-0051 粒剤, NNIF-0052 粒剤, NOJ-121 粒剤, MOK-108 粒剤 パダンオリゼメート顆粒水和剤
	イネミズゾウムシ	床土混和 播種時 移植時 移植時灌注	デラウスプリンス粒剤 6 1271 粒剤, デラウスプリンス粒剤 6 1272 粒剤, KUM-003 粒剤, NC-511 粒剤, NNIF-0051 粒剤, NNIF-0052 粒剤, F-1301 粒剤, MOK-108 粒剤 アドマイヤー顆粒水和剤
	スクミリングガイ	散布	THI-913 CS ジャンボ
	イネシガラセンチュウ	移植時	グランドオンコル粒剤 (OK-9804)

平成 13 年度はイネ・ムギ用に 74 剤, 延べ 552 件の試験が受託され, 昨年に比べ大幅に増加していた。単剤で初めて実用性ありの判定を受けた化合物はなかったが, 殺虫殺菌混合剤の試験は多く, 現場での充実が期待される。

表 - 11 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋 (殺虫剤・野菜花き)

作物名	害虫名	薬剤名
バレイショ	アブラムシ類 ジャガイモシストセンチュウ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), AVI-210 SC, ウララ DF AKD-3088 粒剤
カンショ	ハスモンヨトウ コガネムシ類 ハリガネムシ類 ネコブセンチュウ	デルフィン顆粒水和剤 ダズバン粒剤, ラグビー MC 粒剤 フォース粒剤 ソイリーン, ネマトリンエース粒剤
サトイモ	ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル
ダイズ	ジャガイモヒゲナガアブラムシ カメムシ類 ハスモンヨトウ フタスジヒメハムシ タネバエ	オルトラン水和剤 HM-2005 粉剤 DL, スミチオン粉剤 3 DL アファーム乳剤, サンリットカルホス粉剤, ゼンターリ顆粒水和剤, トルネード フロアブル, マッチ乳剤, マトリックジョーカー粉剤 DL, マトリックフロアブル, ランナーフロアブル, マトリック粉剤 DL, フローバック DF サンリットカルホス粉剤 キヒゲン水和剤
エンドウマメ	ハスモンヨトウ	アファーム乳剤, レビタムフロアブル
ソラマメ	マメハモグリバエ	カスケード乳剤

作物名	害虫名	薬剤名
トウモロコシ	アブラムシ類 アワノメイガ	ガウチョ 70 WS (種子コーティング) トルネードフロアブル
テンサイ	ヨトウムシ テンサイトビハムシ テンサイモグリハナバエ	オルトラン水和剤, ジェイエース水溶剤, ゲットアウト WDG MTI-446 水溶剤 (顆粒), ジェイエース水溶剤, ダントツ水溶剤 MTI-446 水溶剤 (顆粒)
コンニャク	ネコブセンチュウ	ソイリーン
サトウキビ	ハリガネムシ類	オンダイアエース粒剤
ナス	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ マメハモグリバエ チャノホコリダニ ネコブセンチュウ	ウララ DF, バリアード顆粒水和剤 ラノーテープ, カウンター乳剤, バリアード顆粒水和剤 ジェイエース粒剤, プレオフロアブル, IKI-1145 MC 粒剤 アフーム乳剤, カウンター乳剤, デルフィン顆粒水和剤 ダントツ水溶剤, ダントツ粒剤 カネマイトフロアブル ダブルストッパー, ラグビー MC 粒剤
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類 ミカンキイロアザミウマ ハスモンヨトウ トマトハモグリバエ マメハモグリバエ ハダニ類 トマトサビダニ ネコブセンチュウ	ウララ DF, モスピラン粒剤 カウンター乳剤 アタブロン乳剤, ハチハチ乳剤 カウンター乳剤, デルフィン顆粒水和剤 アクタラ粒剤 5, トリガード液剤 スピノエース顆粒水和剤 マイトコーネフロアブル, コテツフロアブル アフーム乳剤, コロマイト乳剤, モレスタン水和剤 MKI-245 粒剤, ダブルストッパー, ソイリーン, ラグビー MC 粒剤
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ オオタバコガ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), MTI-446 粒剤 1, ダントツ水溶剤, ダントツ粒剤 アドマイヤー顆粒水和剤, ラノー乳剤 デルフィン顆粒水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤, プレオフロアブル
キュウリ	アブラムシ類 ウリノメイガ ネコブセンチュウ	モスピラン粒剤 トレボン MC, ハチハチ乳剤, マトリックフロアブル, レピタームフロアブル クロピクテープ, ソイリーン, ダブルストッパー
メロン	シルバリーフコナジラミ ミナミキイロアザミウマ ウリノメイガ トマトハモグリバエ ネコブセンチュウ	MTI-446 粒剤 1, ダントツ粒剤 MTI-446 粒剤 1, アドマイヤー顆粒水和剤, ダントツ粒剤, スピノエース顆粒水和剤 マトリックフロアブル アフーム乳剤 ソイリーン, ダブルストッパー
スイカ	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ネコブセンチュウ	MTI-446 粒剤 1, バリアード顆粒水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤, コテツフロアブル, スピノエース顆粒水和剤, ダントツ水溶剤 ダブルストッパー, ソイリーン
ニガウリ	ウリノメイガ	デルフィン顆粒水和剤
ダイコン	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ アオムシ ヨトウムシ キスジノミハムシ	MTI-446 粒剤 1 カウンター乳剤, チューンアップ顆粒水和剤, プレオフロアブル, レピタームフロアブル ハチハチ乳剤, マトリックフロアブル チューンアップ顆粒水和剤 マトリックフロアブル, プレオフロアブル ラグビー MC 粒剤
ハクサイ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	MTI-446 粒剤 1 MTI-446 粒剤 1, プレオフロアブル プレオフロアブル サブリーナ顆粒水和剤, カウンター乳剤, マトリックフロアブル, プレオフロアブル カウンター乳剤, ジェイエース水溶剤, フローバック DF

作物名	害虫名	薬剤名
キャベツ	アブラムシ類 コオロギ類 コナガ ハイマダラノメイガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	アクタラ顆粒水溶剤 ダーズバンベイト NNI-0001 顆粒水和剤, チューンアップ顆粒水和剤 アフーム乳剤, スピノエース顆粒水和剤, トルネードフロアブル, マトリックフロアブル, モスピラン粒剤 NNI-0001 顆粒水和剤, チューンアップ顆粒水和剤, プレオフロアブル NNI-0001 顆粒水和剤, カウンター乳剤 カウンター乳剤, プレオフロアブル プレオフロアブル
ブロッコリー	モモアカアブラムシ ヨトウムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒) マトリックフロアブル, レピタームフロアブル
チンゲンサイ	アオムシ	アフーム乳剤, ツービット DF, モスピラン粒剤
コマツナ	コナガ	バイオッシュフロアブル
ナバナ	コナガ	バイオッシュフロアブル
ケール	コナガ	チューンアップ顆粒水和剤
イチゴ	アブラムシ類 ミカンキイロアザミウマ ハスモンヨトウ コガネムシ類 ハダニ類 ネグサレセンチュウ	ウララ DF, MTI-446 粒剤 1, アドマイヤー 1 粒剤, ダントツ粒剤, モスピラン粒剤 スピノエース顆粒水和剤 フローバック DF ダイアジノン SL ソル アフーム乳剤 ラグビー MC 粒剤, ダブルストッパー
ネギ	ネギアザミウマ シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ顆粒水溶剤, アクタラ粒剤 5, ダントツ水溶剤, ダントツ粒剤, モスピラン粒剤, プレオフロアブル スピノエース顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤, アクタラ粒剤 5, ダントツ粒剤
ニラ	ネギアブラムシ	モスピランジェット
ニンニク	イモグサレセンチュウ	アオバ液剤, ラグビー MC 粒剤
アスパラガス	ハスモンヨトウ ハダニ類	フローバック DF 粘着くん液剤
レタス	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ粒剤 5, ダントツ水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 トルネードフロアブル, プレオフロアブル, フローバック DF KM 202 フロアブル, サブリナ顆粒水和剤, アフーム乳剤, プレオフロアブル
ゴボウ	ネグサレセンチュウ	ラグビー MC 粒剤
シュンギク	ハスモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤
ニンジン	ハスモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤
ミツバ	ハスモンヨトウ	デルフィン顆粒水和剤
ハウレンソウ	ハスモンヨトウ	アフーム乳剤, デルフィン顆粒水和剤, レピタームフロアブル
オクラ	ネキリムシ類	ガードベイト A
シソ	ハスモンヨトウ	フローバック DF
ショウガ	ハスモンヨトウ ネコブセンチュウ	デルフィン顆粒水和剤 ダブルストッパー
キク	アブラムシ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ マメハモグリバエ ハダニ類 ネグサレセンチュウ	IKI-220 顆粒水和剤 50, MTI-446 水溶剤 (顆粒), MTI-446 粒剤 1 ダントツ粒剤, マラバッサ乳剤, YS-002 フロアブル剤 マトリックフロアブル MTI-446 粒剤 1, ジェイエース水溶剤 AGI-017 スプレー ソイリーン, プラズマ油剤, ルートガード油剤
バラ	アブラムシ類 ミカンキイロアザミウマ ハダニ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒) ジェイエース水溶剤, ダントツ粒剤 バロックフロアブル

作物名	害虫名	薬剤名
ツツジ	ツツジグンバイ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ顆粒水溶剤, アクタラ粒剤 5
ツツジ・サツキ	コガネムシ類	アクタラ粒剤 5
ストック	コナガ	ゼンターリ顆粒水和剤
ガーベラ	コナジラミ類 マメハモグリバエ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), MTI-446 粒剤 1, ラノーテープ MTI-446 粒剤 1
ベチュニア	ダンゴムシ類 ナメクジ類	モスピランスプレー サンヨール液剤 AL
グラジオラス	グラジオラスアザミウマ	ジェイエース水溶剤
カトレア	カイガラムシ類	GL-30 (液剤)
クロトン	ミカンコナカイガラムシ	GL-30 (液剤)
トチノキ	トチノキヒメヨコバイ	マツグリーン液剤 2

平成 13 年度の依頼は 143 剤, 延べ 1741 件と前年並みの試験が受託された。本年初めて実用性ありの判定を受けた化合物は NNI-0001 顆粒水和剤, YE-621 液剤, MKI-245 粒剤だった。

登録農薬が無いか少ない品目の, ソラマメ:マメハモグリバエ, トマト・メロン:トマトハモグリバエ, ニガウリ:ウリノメイガ, ケール:コナガ, ニラ:ネギアブラムシ, アスパラガス:ハダニ類, シュンギク:ハスモンヨトウ, ミツバ:ハスモンヨトウ, オクラ:ネキリムシ類, ベチュニア:ダンゴムシ類・ナメクジ類, グラジオラス:グラジオラスアザミウマ, カトレア:カイガラムシ類, クロトン:ミカンコナカイガラムシ, トチノキ:トチノキヒメヨコバイに実用性ありの判定が出された。

また, 本年度新規登録となったトルネードフロアブルはキャベツ:ハイマダラノメイガ, レタス:ハスモンヨトウ, トウモロコシ:アワノメイガ, ダイズ:ハスモンヨトウに, バリアード顆粒水和剤はナス:オンシツコナジラミ・アブラムシ類, スイカ:アブラムシ類に, アクタラ粒剤 5 はトマト:トマトハモグリバエ, ネギ:ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ, レタス:アブラムシ類, ツツジ:ツツジグンバイ, ツツジ・サツキ:コガネムシ類に, アクタラ顆粒水溶剤はキャベツ:アブラムシ類, ネギ:ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ, ツツジ:ツツジグンバイで実用性ありと判定された。

表-12 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋 (殺虫剤・連絡 (生物除く))

作物名	害虫名	薬剤名
ナシ	アブラムシ類 カメムシ類 ケムシ類 リンゴコカクモンハマキ シンクイムシ類 ハダニ類 ニセナシサビダニ	ダントツ水溶剤 MTI-446 水溶剤 (顆粒), アクタラ顆粒水溶剤, アドマイヤー顆粒水和剤 ロムダンフロアブル ガードジェット水和剤 MTI-446 水溶剤 (顆粒), ダントツ水溶剤 アカリタッチ乳剤, オオナタフロアブル, 粘着くん水和剤 アントラコール顆粒水和剤
モモ	シンクイムシ類 モモハモグリガ モモサビダニ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), DAI-0011 72%顆粒水和剤 スピノエースフロアブル コロマイト乳剤, ハチハチフロアブル, マイトコーネフロアブル
スモモ	ウメシロカイガラムシ ハダニ類	アプロードフロアブル カネマイトフロアブル, マイトコーネフロアブル
アンズ	アブラムシ類	モスピラン水溶剤
ウメ	ウメシロカイガラムシ	AGIF-011 スプレー, アプロードフロアブル
ブドウ	フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ブドウトラカミキリ ハダニ類	ジェイエース水溶剤 ジェイエース水溶剤 モスピラン水溶剤 カネマイトフロアブル
カキ	コナカイガラムシ類 カキノヒメヨコバイ カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤 オリオン水和剤 40, ダントツ水溶剤 MTI-446 水溶剤 (顆粒), アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤, ジェイエース水溶剤 アドマイヤー顆粒水和剤, ジェイエース水溶剤 TMI-951 顆粒水溶剤, ジェイエース水溶剤 オリオン水和剤 40
リンゴ	アブラムシ類 クワコナカイガラムシ ハマキムシ類 キンモンホソガ リンゴハダニ ナミハダニ	AVI-210 SC, ウララ DF ダントツ水溶剤, バリアード顆粒水和剤, アプロードフロアブル エスマルク DF, NNI-0001 顆粒水和剤 NNI-0001 顆粒水和剤 オオナタフロアブル, オマイト MC, パロックフロアブル オオナタフロアブル, オマイト MC

作物名	害虫名	薬剤名
オウトウ	ハマキムシ類 オウトウシヨウジョウバエ ハダニ類	デルフィン顆粒水和剤, ファルコンフロアブル ダントツ水溶剤 9761 顆粒水和剤, タイタロンフロアブル
カンキツ	アブラムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ ミカンハモグリガ ハスモンヨトウ コアオハナムグリ ケシクスイ類 ゴマダラカミキリ ミカンハダニ ハダニ類 チャノホコリダニ ミカンサビダニ	ハチハチフロアブル MTI-446 水溶剤 (顆粒), アドマイヤー顆粒水和剤 スピノエースフロアブル スピノエースフロアブル ラービンフロアブル アクトラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤 アクトラ顆粒水溶剤 カルホス乳剤 YE-621 液剤, オオナタフロアブル, 粘着くん水和剤 アカリタッチ乳剤 コテツフロアブル アブロードエースフロアブル, オオナタフロアブル, コロマイト水和剤, ダニエモンフロアブル, ハチハチフロアブル
茶	チャノコカクモンハマキ チャノホソガ ハスモンヨトウ チャノホコリダニ チャノナガサビダニ ネコブセンチュウ類	NNI-0001 顆粒水和剤, スピノエースフロアブル ファルコンフロアブル ランネート 45 水和剤 アファーム乳剤, ハチハチ乳剤, オサダンフロアブル アブロードエースフロアブル, ハチハチ乳剤 テロン 92
芝	シバツトガ スジキリヨトウ コガネムシ類 シバオサゾウムシ (成虫)	KI-78 TI-9901 顆粒水和剤, ブイボン乳剤, リプレース MC NC-509 粒剤, イールダー SG TI-9901 顆粒水和剤, タフバリアフロアブル

平成 13 年度の落葉果樹農薬連絡試験では 40 薬剤が依頼され、延べ 270 件の試験が受託された。リンゴ農薬連絡試験では 36 剤が依頼、延べ 157 件が受託、カンキツ農薬連絡試験では 36 薬剤が依頼、延べ 181 件が受託、茶農薬連絡試験では 26 薬剤が依頼、延べ 118 件が受託、芝草農薬連絡試験では 13 剤が依頼、延べ 70 件が受託された。カンキツ分野では新規殺ダニ剤の試験が一段落し前々年の水準にもどったが、落葉果樹で増加したほか、近年開発が停滞気味だった茶・芝草分野でも若干の回復が見られた。

これら連絡試験では、新規化合物の AGIF-011 スプレーがウメ：ウメシロカイガラムシで、NNI-0001 顆粒水和剤がリンゴ：ハマキムシ類・キンモンホソガ、茶：チャノコカクモンハマキで初めての実用性あり判定を受けていた。

登録農薬が無いか少ない品目では、スモモ：ウメシロカイガラムシ・ハダニ類、アンズ：アブラムシ類、カキ：カキノヒメヨコバエ・ハスモンヨトウ、オウトウ：オウトウシヨウジョウバエ、茶：ハスモンヨトウ、で実用性ありの判定が出された。

表 - 13 平成 13 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤
(殺虫剤・生物農薬)

作物名	害虫名	薬剤名
ナス	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ マメハモグリバエ	トモノアブラバチ AC CAS-001 RSTM-1 トモノヒメコバチ DI
トマト	オンシツコナジラミ	トモノツヤコバチ EF 30
キュウリ	ワタアブラムシ ハダニ類	トモノアブラバチ AC トモノカブリダニ PP
メロン	ワタアブラムシ ハダニ類	トモノアブラバチ AC スパイデックス, トモノカブリダニ PP
スイカ	アブラムシ類	アフィデント
バラ	ハダニ類	スパイデックス
シクラメン	アザミウマ類 ハダニ類	ククメリス スパイデックス
ヒノキ	コガネムシ類	芝市ネマ
オウトウ	ハダニ類	トモノカブリダニ PP

表 - 13 の注)

平成 13 年度の生物農薬連絡試験では、ほぼ前年並みの 30 薬剤が依頼され、延べ 133 件の試験が受託され、安定した開発が続けられている。

本年初めて実用性ありの判定を受けた種は RSTM-1 (アリガタシマアザミウマ)、トモノヒメコバチ DI (イサエアヒメコバチ) の二つであった。

また、花き類のハダニ対象にスパイデックス (チリカブリダニ) が実用性ありの判定を受けた。生物農薬の新たな活用場面として注目したい。

****試験事業部からのお知らせ****
 一委託試験の名称変更について一

当協会の農薬委託試験につきましては、稲・野菜関係を一般委託試験、果樹等では樹種別の連絡試験、等々の名称を付して運用してまいりましたが、これら名称の不整合が指摘されておりましたところから、今般名称を整理し、平成14年度事業から下記のとおり変更することと致しました。今回の変更は内容の変更を伴うものではなく、この機会に従来にも増して充実した事業の推進に努めていく所存ですので、これまで同様、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

旧	新
「全般的な呼称」 農薬委託試験	試験研究
「薬効・薬害試験」 一般委託試験（稲・野菜） 落葉果樹農薬連絡試験 リンゴ農薬連絡試験 カンキツ農薬連絡試験 茶農薬連絡試験 芝草農薬連絡試験 生物農薬連絡試験	新農薬実用化試験（稲・野菜） 新農薬実用化試験（落葉果樹） 新農薬実用化試験（寒冷地果樹） 新農薬実用化試験（常緑果樹） 新農薬実用化試験（茶） 新農薬実用化試験（芝草） 新農薬実用化試験（生物農薬）
特別委託試験（非公開）	防除資材基礎試験（非公開）
「影響試験」 作物残留試験 土壌残留試験 水中残留試験 環境生物影響試験 環境動態試験	新農薬環境動態試験（作物残留） 新農薬環境動態試験（土壌残留） 新農薬環境動態試験（水質汚濁性） 新農薬環境動態試験（環境生物影響） 新農薬環境動態試験（環境動態）

発行図書

日本植物病名目録(初版)

日本植物病理学会 編 B5判 本文734頁+索引他124頁

定価 11,550 円税込み (本体 11,000 円) 送料サービス

1960年から発行された日本有用植物病名目録：第1巻(食用作物・特用作物・牧草・芝草)、第2巻(野菜および草花)、第3巻(果樹)、第4巻(針葉樹、竹笹)、第5巻の広葉樹(林木・観賞樹木)までの全5巻に新規に「きのこ」を追加して一冊に纏めた見やすい大植物病名目録です。掲載内容は、食用作物、特用作物、牧草及び芝草、野草、野菜、きのこ、草花、果樹、針葉樹、竹笹、広葉樹、索引(宿主和名、宿主学名、病原学名、病原和名、ウイルス・ウイロイドの種名・略号・和名・科名および属名一覧表。

お申し込みは直接当協会へ、前金(現金書留・郵便為替)で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。
 社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL(03)3944-1561(代) FAX(03)3944-2103 メール: order@jppa.or.jp

発行図書

農薬ハンドブック 2001年版

同書編集委員会 編 A5判 本文941頁

定価 9,240 円税込み (本体 8,800 円) 送料サービス

市販農薬を用途別に作用特性、使用上の注意、各製剤の使用法・適用などについて解説。一般名・化学名・構造式・物理化学的性質、毒性・魚毒性を付録にまとめた農薬に関する解説書です。

お申し込みは直接当協会へ、前金(現金書留・郵便振替)で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。
 社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL(03)3944-1561(代) FAX(03)3944-2103 メール: order@jppa.or.jp